

# 明るい未来は僕らの手の中に

## アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト 2006 関東甲信越地区大会

次々と障害物を乗り越える



操縦者とロボットの息はピッタリ!

茨城高専のロボット部の部員たちは、4月下旬にNHKから発表された競技内容とロボットの規格に合わせ、自分たちのアイデアでロボットを設計・製作。試行錯誤を繰り返し、8月にはようやくロボットの形になり、その後も夏休みを返上。夏休み終了後も毎晩遅くまで残り、ロボットへ改良に改良を重ね、部員全員が一丸となり大会に臨みました。

大会は、茨城高専Aチームがトーナメントを制し、見事優勝に輝きました。茨城高専Bチームは惜しくも3回戦で敗退しましたが、その活躍が認められ、特別賞を受賞しました。

### 茨城高専Aチームの学生の声

「せっかく高専に入学したのだから、普通の高校ではできない、高専でしかできないことをやりたいと考え、ロボット部に入部しました。夏休み以降は、夜遅くまで作業する日が増え、大変なことも多かったが、優勝することができて非常に嬉しいです。努力が報われました。」

また、操縦者の岩上（いわかみ）さんは「本番前日、1回戦の相手が昨年決勝で敗れた東京高専と知り、負けてしまうかもと弱気になったが、周りを気にせず自分が今できることをやればよいと考え、集中することができた。」と力強く話してくれました。



見事優勝に輝いた茨城高専Aチーム

### 茨城高専Bチームの学生の声

「前日のテストランでロボットの調子がおかしくなってしまう、本来の力が出せなくて非常に悔しいです。来年こそは必ず良い結果を残したい。将来は高専ロボコンで学んだ技術を生かした仕事に就きたいです。人の役に立つロボットを作りたいです。」

また、操縦者の佐藤（さとう）さんは「ロボットの調子は良くないが、できるだけベストを尽くそうと考えたことで、焦ることなく、本番で発生した問題にも対処することができた。」と冷静に話してくれました。



特別賞を受賞した茨城高専Bチーム

### 担当教諭の声



田辺先生

宝角先生

#### ○宝角（ほうずみ）先生

とにかく頑張れば結果は出る。今回の優勝と特別賞も学生が頑張った成果である。ロボットは1つの部品でできているのではなく、複数のものが融合してできている。学生には、1つのことだけではなく、総合的にわかるエンジニアになってもらいたい。自分たちの経験を生かして、自分を発展させていってほしい。

#### ○田辺（たなべ）先生

今までは重量制限ぎりぎりのロボットで挑戦するというのが主流だったが、今回はできるだけ軽量化し、新しいものにチャレンジしたことが素晴らしい。たとえトラブルが起きても、それを生かして次に繋げる。そうやって成長していってほしい。